

脱炭素社会への挑戦

阪神高速グループでは、カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けた環境施策の方向性を、以下の3つの視点で捉え、総合的・包括的な取り組みを推進しています。

3つの
視点

1 より快適な高速道路
サービスの提供
(地域の自動車交通の円滑化)

2 社会インフラ企業
としての自主努力
(事業活動における脱炭素化)

3 地域や社会との共創
(地域や関係事業者との協働)

1 3つの視点に基づく取り組み より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)

円滑な自動車交通の確保

阪神高速道路ネットワークの拡充・強化により、都市部へ集中する交通負荷の軽減を図るとともに、ボトルネック渋滞の発生箇所における車線運用の改良や速度回復誘導灯の運用最適化など、さまざまな渋滞対策により円滑な自動車交通を確保することで、走行車両からのCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

📖 P.32、P.36



西船場JCT

高速道路ネットワーク整備はCO₂抑制に貢献しています

自動車は時速60kmから80kmで走行すると燃費が良く、CO₂排出量も少なくなります。一般道路よりも効率良く走行できる環境を整える阪神高速道路のネットワーク整備そのものが地域全体のCO₂抑制に貢献しています。



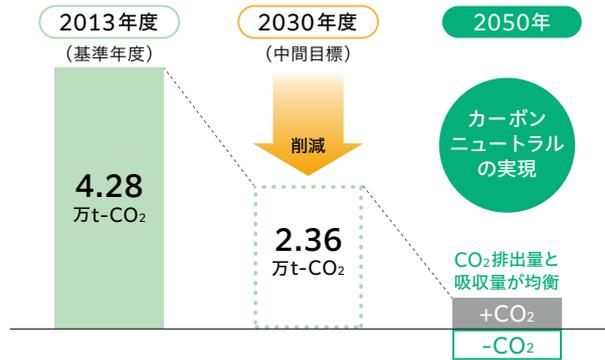
※ 出典：林野庁ホームページ

2 3つの視点に基づく取り組み 社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)

カーボンニュートラル・脱炭素社会に向けた目指すべきゴール

カーボンニュートラルに向けた目標

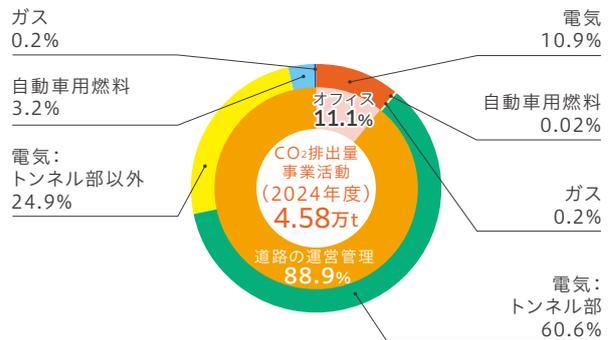
阪神高速グループでは、2050年カーボンニュートラルの実現をゴールに定め、事業活動における脱炭素化に取り組んでいます。また、阪神高速道路(株)では、2030年度までにCO₂排出量を50%削減(2013年度比)することを中間目標とし、目標達成のための主要施策につき「阪神高速グループ環境行動計画」で数値目標を定め、事業活動における脱炭素化の取り組みを進めています。



※ CO₂排出量については、2013年度は阪神高速道路(株)単体のものを、2030年度は阪神高速グループ全体のものをそれぞれ表しています。

2024年度のCO₂排出量

事業活動に伴うCO₂排出量のうち、電力使用によるものが約96.4%とその大半を占めています。そのため、阪神高速グループでは、道路照明のLED化や太陽光発電設備を活用した電力使用への切り替えなど、事業活動における電力使用量の削減を中心としたCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



注) 2023年度の調整後排出係数を使用して暫定値として算出

電力使用量およびCO₂排出量の推移

近年、電力使用量の多いトンネル部の開通や猛暑などの影響により、電力使用量およびCO₂排出量は増加傾向にあります。そのため、阪神高速グループでは、道路照明のLED化をはじめとした取り組みなど事業活動における脱炭素化に向けた取り組みを進めていますが、2024年度はともに前年度と同水準で推移する結果となりました。

なお、2022年度以降のCO₂排出量の急激な変化は、主に電気事業者のCO₂排出係数の変化によるものと分析しています。



事業活動における脱炭素化に向けた取り組み

道路照明LED化などの推進

CO₂排出量の大半を占める電力使用量の削減に向け、2030年度の概成を目指して道路照明のLED化を進めています。また、オフィスにおいても、不要照明の消灯や適正な温度設定による空調設備の運転などに取り組んでいます。



LED化された道路照明

再生可能エネルギーの活用

トンネルやパーキングエリア、料金所など計4箇所にて太陽光発電設備を設置し、発電した電力はトンネルやパーキングエリアなどで使用する電力の一部に利用しています。また、賃貸オフィスビルにおいても、可能な箇所では再生可能エネルギー電力の調達に取り組んでいます。



太陽光発電設備
(7号北神戸線長坂山トンネル坑口付近)

循環型資材(木材)の活用

2025年2月、5号湾岸線中島本線料金所跡地にオープンした中島PA(泉佐野方面行き)では、循環型資材である木材を多用することで、ぬくもりや心地よい空間づくりに努めています。この木材には、森林が吸収した炭素を貯蔵する役割があり、木材を燃やさない限り炭素は木材にとどまり続けるため、「炭素の貯蔵庫」とも呼ばれています。阪神高速グループでは、CO₂削減に貢献する木材を、他のパーキングエリアでも積極的に活用しています。



中島PA(泉佐野方面行き)

3 3つの視点に基づく取り組み 地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)

阪神高速グループの森づくり活動 ~温室効果ガス吸収源対策×生物多様性保全~

阪神高速グループは、5号湾岸線に隣接する兵庫県立尼崎の森中央緑地で、2017年から「阪神高速グループの森づくり活動」をスタートさせました。専門家の指導のもと、社員自ら約150m²に15種類の苗木を植栽し、除草・間伐作業などを継続実施しています。8年目を迎え植物は着実に生育しており、昆虫や鳥も集まるなど、地域の生物多様性保全にも貢献し始めています。

※兵庫県立尼崎の森中央緑地は、2023年10月、国の認定制度である生物多様性の保全が図られている区域「自然共生サイト」に認定されました。



除草・間伐作業(2024年12月実施)